

わが

「ひと・自然・産業が輝く 協働と 共創のまち 赤平」を目指して

豊かな自然に恵まれたまち 赤平市

赤平市は、北海道のほぼ中央部に位置しており、市域の形はやや四角形で、東西14・1km、南北18・5km、面積は129・88km²あります。南北が山地であることから、東西に石狩川水系の空知川が屈曲して平野部を流れ、平行しながら東西に走る国道38号線・JR根室本線に沿って、带状に細長く市街地が形成されています。



「炭都の火を消してはいけない」という若者たちの思いから生まれた夏の一大イベント「あかびら火まつり」

近年は治水対策も整ったことから、比較的自然災害も

少なく、緑に囲まれた静かなまち並みを形成しております。

また、本市の夏の風物詩である最大のイベント「あかびら火まつり」は、毎年7月第3土曜・日曜に開催しております。赤いふんどしを締め、たいまつを持ったランナーが市内を駆け巡り、その火がズリ山に「火文字」(縦80m、横60m)を灯し、「火神輿」に受け継がれる様子は、荒々しくも、おごそかな空気を感じます。

最終日の夜には花火大会が開催され、5000発の花火が夜空を彩ります。

鉱業から田園工業都市へ

本市は、市制を施行して本年で67年を迎えました。その歴史をひもときますと、安政4年に北海道の名付け親として知られる松浦武

四郎により露頭炭層が発見され、

大正2年に鉄道が開通したことを契機に、大正7年に最初の炭鉱が開採し「石炭のまち」の歴史が始まりました。最盛期には22カ所の炭鉱があり、昭和35年には人口も5万9000人を数え、産出される石炭により、同年の旧国鉄根室本線赤平駅の貨物取扱量が、大阪の梅田駅を抜き全国一に輝いたこともあり、希望と活気に満ちた時代を築いたところです。

しかし、その後の原油の輸入自由化、外国炭の進出など急速なエネルギー革命の嵐に見舞われた中で、昭和30年代後半から、国の石炭政策によるスクラップ・アンド・ビルド方式での炭鉱の合理化や閉山が進められたため、その影響を大きく受け、石炭産業の衰退を余儀なくされたのであります。結果、



エルム山の麓に広がる雄大な自然と、充実した設備が人気のオートキャンプ場

平成6年2月に本市最後の一山が閉山し、赤平における「石炭の歴史」に幕を下ろすことになりました。

石炭産業が斜陽化を迎える中、昭和40年代から企業誘致に力を注ぎ、道内はもちろんであり、道外からも優良企業に進出していただき、多くの企業が操業しているところです。

赤平に開拓の鉄が下ろされてからちょうど130年。農業で始ま

わが

全国に誇れる「住みよいまち守谷」を 目指して

水と緑に恵まれたまち もりや

守谷市は、茨城県の南西端、東京都心から40km圏内に位置し、ま
ちの周囲を利根川・鬼怒川・小貝川
に囲まれた、水と緑に恵まれたま
ちです。平成17年のつくばエクス
プレスの開業により、秋葉原駅ま



都心から40km圏内とは思えない景色が広がる「守谷野鳥のみち」

で最短で32分で結
ばれたことで便利
性が飛躍的に向上
し、茨城県の玄関
口として発展を続
けています。
市内には「守谷
市観光協会」が主
体となり、市民ポ
ランテニアや企業
などの協力を得
て、市と協働で整

備された総延長4kmの「守谷野鳥
のみち」があり、市内外から多く
の方が訪れ野鳥観察路として活用
されています。

また、本年3月には「守谷野鳥
のみち」での「Morinjoエコハイク
ラリー」や、市庁舎などに設置した
グリーンカーテンで育てたホップ
の実を使用した地ビール「MORIYA
GREEN BEER」の製造など、豊か
な自然の恵みを活用した持続可能
なまちへの取り組みが、グリーン
インフラ官民連携プラットフォーム
（国土交通省主管）が主催する
「第1回グリーンインフラ大賞」



緑と共生する取り組みが高い評
価を受けたグリーンインフラ大賞

において、応募のあった全117
件の中から「生活空間部門」で国
土交通大臣賞を受賞しました。
**まちづくり協議会の推進と
市制施行20周年**

市内にある八坂神社の夏の例大
祭は「八坂神社祇園祭」として、
江戸時代から続く夏の風物詩と
なっています。のぼりが多く立て
られることから「幟祭」とも呼ば
れ、平成27年には本市では初の
「市指定無形民俗文化財」にも指
定されました。地域の方々が一つ
になり、脈々と伝統を受け継がれ

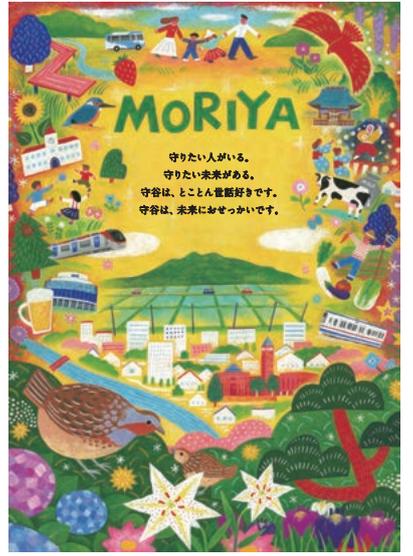


地域の方々の手により立てられ
た勇壮な大幟



市制施行20周年記念PRのため、中学生と制作したラッピング公用車

ていくことは、地域の力を高める
ことにもつながります。市では地
域のことを地域の皆さままで考え運
営していただく「まちづくり協
議会」を推進しており、伝統文化の
継承を通じて、さらに地域のつな
がりや力が高まることを願ってい
ます。
また、本市は、令和4年2月2
日に市制施行20周年を迎えます。
20周年を迎えるに当たり、施行以
来のまちの歩みを振り返り、未来
に向けて飛躍する新たな出発点と
するため、市民の皆さまとお祝い



シティプロモーション用に子どもたちと制作した「守谷イメージ画」

するとともに、市内外に広く周知するため、各種記念事業を展開してまいります。さらに、この節目の年を多くの皆さまと祝うことができるよう、「守谷は、未来におせっかいです。」をブランドメッセージにしたシティプロモーションとともに、多くの皆さまに20周年の到来を周知してまいります。

フォープラスワンの「もりやビジョン」のまちづくり

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済においては世界恐慌以来の経済的な危機が懸念されており、本市も過去に経験したことがない厳しい市政運営を強いられると認識しています。フランスの哲学者であるブルーノ・ラトゥールは「すべてが止まったの

なら、すべてを見直すことができると述べています。この未曾有の状況だからこそ、既成概念や前例主義にとらわれることなく、「市民の皆さまは何を望んでいるのか」「何が必要なのか」を原点に立ち返って考える必要があります。

本市では、これまで、学校教育と子育て環境の充実を図る「わくわく子育て王国もりや」、健康で生きがいを持つシニアの増加を目指す「いきいきシニア王国もりや」、支え合いの絆が育まれる地域づくりの実現を目指す「地域主導・住民主導のまちづくり」の三つを重点政策に掲げ、これらに直結する施策を優先的に取り組んできてまいりました。

本年度は、これらにデジタル化による利便性の向上や業務効率化など、デジタルトランスフォーメーションへの取り組みを加速させ、スマートシティの実現を目指す「スマートデジタル王国もりや」を加えた四つの柱に、財源の創出や豊かな資源の保全、災害に強いまちなど「王国もりやの未来創り」を加えた、フォープラスワンの「もりやビジョン」の実現に向けたまちづくりを進めてまいります。

持続可能な社会に向けた、未来計画の策定

本年度は「第三次守谷市総合計画」の策定年度に当たります。本計画の策定を進めるに当たり、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGsとの関連性を示すことが重要であると考えています。SDGsの17の目標や169のターゲットの中には、グローバルかつ国家として取り組む必要があるものも含まれますが、

プロフィール

- ◆ 面積 35・71km²
- ◆ 人口 6万9573人
- ◆ 世帯数 2万8865世帯

〔将来都市像〕緑きらめき人が輝く絆つなぐまちもりや

〔まちの特徴〕「まちづくり協議会」を中心に、支え合いの絆が育まれる地域づくりを目指す、水と緑に恵まれたまち



守谷市長
松丸修久



〔特産品〕イチゴ、乳製品、そば、みそ、ビール

〔観光〕守谷野鳥のみち、守谷城址公園、四季の里公園

〔イベント〕守谷ハーフマラソン、MOCOフェスタ、八坂神社祇園祭、守谷市商工まつり、スポーツフェスティバル

本計画において市が目指す方向性と、SDGsの理念や目標は合致しており、市のさまざまな施策を組み合わせることで相乗的な効果を発揮し、SDGsの目標達成に向けた取り組みへの推進につながると考えています。

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、本市の未来計画として策定を進め、全国に誇れる「住みよいまち守谷」を目指してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

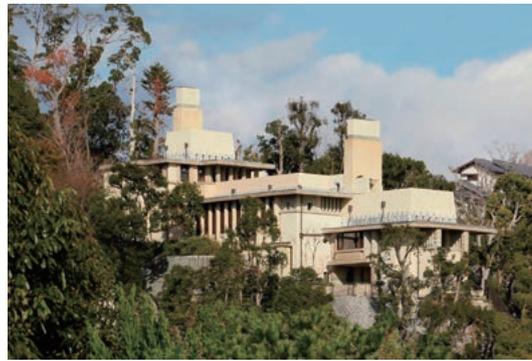
人がつながり 誰もが輝く 笑顔あふれる住宅都市

緑の山と青い海に包まれた
コンパクトで利便性の高い
国際文化住宅都市

芦屋市は、大阪と神戸のほぼ中
央に位置し、東西約2.5km、南北
約9.6kmと南北に細長いまちで
す。北は六甲山、南は大阪湾に面
し、気候温かな自然環境と交通の

安心・安全で良好な住宅地
としての魅力を高める
まちづくり

本市は、「阪神間モダニズム」と
呼ばれる独自の地域文化が開花
し、文豪谷崎潤一郎の『細雪』で
は芦屋も舞台となっており、当時
の暮らしが描かれています。建築
物としては、近代建築の巨匠フラ
ンク・ロイド・ライトが設計したヨ
ドコウ迎賓館をはじめ、歴史文化
遺産が数々あり、本市の良好な景
観を形成しています。



美しい景観の一つであるヨドコウ迎賓館

利便性に恵ま
れ、特別法であ
る「芦屋国際文
化住宅都市建設
法」をまちづく
りの基本理念に
国際文化住宅都
市として発展
し、令和2年11
月10日に市制施
行80周年を迎え
たまちです。

それらの芦屋の美しい
景観を守り、育てる取組
にも力を入れており、「景
観地区」の認定制度によ
り良好な景観の創出と維
持に努めております。ま
た、平成26年4月に景観

法に基づく景観行政団体となった
ことから、屋外広告物条例を整備
し、全ての屋外広告物にアドバ
ルーンやネオンサインを禁止する
などの共通基準を適用し、周囲の
景観と調和を図っています。



芦屋川景観

さらに、「電柱・電線のないま
ち」を目指して、無電柱化の推進
により都市景観の向上を進めると
ともに、令和元年10月には住環境
をより一層魅力的なものとするた
め、美しいまちなみを形成する上
で大きな役割を果たす街路樹など

について、街路樹課を新設し、よ
りきめ細やかで一体的な管理を行
い、住宅都市としての魅力をさら
に高めています。

若い世代の子育ての希望を
かなえるまちづくり

本市の場合、年々、出生数は減
少していますが、共働き世帯が増
加し、就学前教育・保育へのニー
ズが高まっています。待機児童な
どの諸課題があることから「市立
幼稚園・保育所のあり方」を公表
し、施設の再編整備や民間活力を
導入し、受け入れ可能な保育児童
数を増加させるなど、地域で安心
して子育てができる環境整備に努
めています。

令和3年4月からは、病气やけ
がにより他の児童との集団生活が
困難な場合、お子さまを一時的に
お預かりする病児・病後児保育事
業を伴うこども園や、子育て中の
親子が集う空間で、子育ての輪を
広げる子育て支援拠点事業を含む
こども園がスタートし、一層の教



芦屋サマーカーニバルの花火

100周年に向けた 社会情勢の変化に対応する 行財政改革の推進

令和3年にスタートする第5次総合計画および第2期創生総合戦略では、市民ワークシヨップで提案された「ASHIYA SMILE BASE」をキャッチフレーズに、「人がつながり 誰もが輝く 笑顔あふれる住宅都市」を本市の今後10年間で目指すべき将来像に掲げ、将来の世代にわたり、人々の笑顔があふれ、誇りを持てるまち、さらには多くの人に憧れと夢を持って選ばれる「住み続けたいまち、住んでみたいまち芦屋」を目指し、次の100周年に向けた取組を進めています。

行財政改革では、公共施設の最適化構想を進め、将来世代へ負担を持ち越さない施設保有量となるよう、公共施設の総量縮減と機能の充実を図るとともに、組織の枠にとらわれず活躍する職員を育成し、業務変革への着手や市民、民間企業などとの協働・連携にも戦略的に取り組んでまいります。

あらゆる人が心地よく 暮らせるまちづくり

福祉サービス提供基盤の整備をはじめ、高齢者を地域で支える体制づくり、障がいのある人の就業支援、生活困窮者の自立支援を進めています。

また、各種展示事業や平和記録集の発行など、市民の平和意識の醸成を図る事業に加え、LGBT（性的少数者）などさまざまな人権課題について、講演会などを通じて啓発を行い、多様性と人権が尊重される社会づくりに向けた取組を進めています。

男女共同参画の視点では、女性の個々の状況に応じて包括的に支援する「女性が輝くまち芦屋」プロジェクトがスタートしています。

国際交流事業では、多言語や

「やさしい日本語」を用いて情報を提供するとともに、外国人向けの防災訓練や災害時外国人支援講座、外国にルーツを持つ方との交流や講演会などにより、多文化共生のまちづくりを進めています。今後も、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、お互いの人権を尊重し合い、誰も取り残されることなく、自分に合った役割を担い、お互いに支え合う地域づくりをさらに進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 18・57km²
- ◆ 人口 9万5616人
- ◆ 世帯数 4万5085世帯

〔将来都市像〕人がつながり 誰もが輝く 笑顔あふれる住宅都市
〔まちの特徴〕北は六甲の山並み南は大阪湾に面し、気候温和な自然環境と便利な交通環境など生活条件に恵まれた、日本屈指の「国際文化住宅都市」



芦屋市長
いとう まい



〔文化財〕旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）、芦屋会下山弥生時代住居跡、徳川大坂城毛利家探石場出土刻印石、阿保天神社方石、旧芦屋市営宮塚町住宅、芦屋川の文化的景観、芦屋川水車 絵図
〔イベント〕芦屋さくらまつり、芦屋サマーカーニバル、あしや秋まつり、あしや山まつり



昭和25年国際文化住宅都市建設法

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「美しく駆ける 活躍都市 美馬」 住み続けたいまちをめざして

豊かな自然と数多くの
文化財が残る歴史情緒
あふれるまち

徳島県美馬市は、平成17年3月
に旧美馬郡内の脇町、美馬町、
穴吹町、木屋平村の3町1村が合
併してできたまちです。



日本一の水質を誇る穴吹川



世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」

日本百名山の一つに数えられる
「剣山」、日本一の水質を誇る「穴
吹川」、市の中央部を流れる日本
三大暴れ川の一つである「吉野
川」、その「吉野川」の水運に恵ま
れ、藍の集積地として栄えた脇町
は、商家の富や成功を物語る「う
だつ」や、虫籠窓を備えた江戸中
期から昭和初期の建物が今も多く
残り、昭和63年に国の重要伝統的
建造物群保存地区に、平成19年
には「美しい日本の歴史風土100
選」にも選ばれています。

また、平成30年には、県西部で
400年以上継承されており、
「にし阿波の傾斜地農耕システム」
が、中四国で初めての世界農業遺
産に認定されています。さらに、
令和元年には、本市を含む吉野川
流域9市町の阿波藍の伝統文化
が、文化庁の日本遺産に認定され
ています。

そして国内で唯一、古代から
天皇即位の大嘗祭に神御衣とな
る、籠服という麻織物を調進して
きました。令和の大嘗祭の際に
も、本市で栽培された麻を、市民
が協力し、古来よりの慣習と伝統
にのっとり、麻の反物として調
製し、籠服調進を実現いたしました。
このように歴史情緒豊かな一
面を持ち合わせる、清らかな水と
豊かな緑に囲まれた自然の美し
いまちです。



ヴォルティスコンディショニングプログラム

サッカーJ1のクラブと
連携した健康づくり事業
日本初となるサッカーJ1リーグ
クラブの徳島ヴォルティスと連携
した健康づくり事業「美馬市版
SIBヴォルティスコンディショ
ニングプログラム」に取り組んで
います。

この事業では、行政コストの削
減が期待できる民間資金を活用し
た「成果運動型」の委託契約方式を
採用し、姿勢の悪さや慢性的な痛
み（肩痛・腰痛）を、運動機能を改



うだつの町並み

進めてまいります。できるまちづくりを
の誰もが健康で活躍
くことにより、市民
報を「心に届く情報」
として伝え、健康づ
し、健幸アンバサ
ダー養成講座を開催
しています。健康情
報を「心に届く情報」
として伝え、健康づ
くりの輪を広げてい
くことにより、市民
の誰もが健康で活躍
できるまちづくりを
進めてまいります。

善することによって痛みの解消を
図るとともに、運動習慣の定着を
図ることで、将来的な医療費・介護
給付費の削減を目指しています。

また、子どもたちが遊びを通じ
て、楽しく積極的に運動と栄養に
関わることで、生涯スポーツの基
礎を身につけるために、徳島ヴォ
ルティス、大塚製薬に協力をいた
だき、健康の3原則「運動(遊び)」「
栄養」「休養」を充実させること
や、集団遊びなどを通じた社会適
応能力の向上を目的として、市内
の認定こども園の5歳児を対象
に、「ヴォルティス 元気つず
プログラム」を実施しています。

そして、本市が加盟しているS
WC (smart wellness community)
協議会で行っている健幸アンバサ
ダー認定制度を活用
し、健幸アンバサ
ダー養成講座を開催
しています。健康情
報を「心に届く情報」
として伝え、健康づ
くりの輪を広げてい
くことにより、市民
の誰もが健康で活躍
できるまちづくりを
進めてまいります。

安心・安全のまちづくり 職員全員の防災士取得

豪雨や南海トラフ巨大地震など
の災害に備えるため、地域防災マ
ネージャーの資格を有する防災対
策監を設置し、図上訓練や避難所
開設訓練など、より実践的な訓練
を実施しております。

また、地域の防災力向上のため、
職員の防災意識の醸成を図るべ
く、職員全員の防災士取得を目指
しており、令和2年度末で私を含
め91人が取得いたしました。令和
3年度については、職員に加え、
新たに市内企業での防災士養成支
援に取り組み、地域全体の防災意
識向上を推進してまいります。

さらに、市役所の危機管理機能
強化を目指し、市役所駐車場を災
害時は屋外防災活動拠点となる
「ハイブリッド」な施設として、整
備を進めてまいります。

人生100年時代に向けて

生涯にわたり、喜びや生きがい
を持って、美しく、健康に暮らせ
るまちづくりを進めるため、「人
生100年時代」を見据え、高齢
化を全ての人が幸せになるチャン

スに変える社会の実現を目指し
て、高齢者の社会参画を促進して
います。

令和3年度からは、総務省の「地
域活性化起業人交流プログラム」
を活用し、株式会社ANNA総合研
究所から派遣された地域活性化起
業人とともに、「美と健康」をキー
ワードに、「人生100年時代」を
美しく、健康で暮らすことのでき

プロフィール

- ◆ 面積 367・14km²
- ◆ 人口 2万8155人
- ◆ 世帯数 1万2653世帯

〔将来都市像〕美しく駆ける 活躍都市
美馬 く住み続けたいまちをめざし
て

〔まちの特徴〕日本一の清流穴吹川、
剣山山系の豊かな緑に囲まれた、歴史
情緒あふれるまち

〔市町村合併〕平成17年3月1日、脇
町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併、
美馬市となる



美馬市長
藤田元治



〔特産品〕プロイラー、シンビジウム、
ぶどう、和傘、ゆず、ブルーベリー、はっ
さく、しいたけ、竹製品

〔観光〕うだつの町並み、脇町劇場(オ
デオン座)、寺町、穴吹川、剣山、中
尾山高原

〔イベント〕華道展「うだつをいける」、
うだつのまちの阿波おどり、デ・レイ
ケ公園チューリップまつり、寺町花
しょうぶ祭り、美馬市花火大会

るまちづくりにチャレンジします。
これらの取り組みにより、まち
づくりのキャッチフレーズとして
掲げている「美来創生のまち美馬
市」一歩先の確かな未来へ、
力強く歩みを進めると同時に、
「美馬市に住んで良かった」「美馬
市に住み続けたい」と実感してい
ただけるよう全力を尽くしてい
ます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。